資料４

小中一貫教育校検証部会　検討経過

１　小中一貫教育校検証部会　開催状況

第１回　　平成 25 年 12 月４日

第２回　　平成 26 年１月 14 日

第３回　　平成 26 年２月５日

第４回　　平成 26 年２月 26 日

第５回　　平成 26 年６月 17 日

第６回　　平成 26 年９月９日

第７回　　平成 26 年 10 月２日

第８回　　平成 26 年 12 月３日

第９回　　平成 27 年２月 17 日（予定）

２　主な検討事項

（１）小中一貫教育校の検証に関わる意識調査

○平成 25 年度に作成した検証計画に基づき、平成 26 年７月に大泉桜学園３～９年生および全保護者・全教員・学校関係者（学校応援団、町会長など）に対して意識調査を実施し、集計結果について検討した。

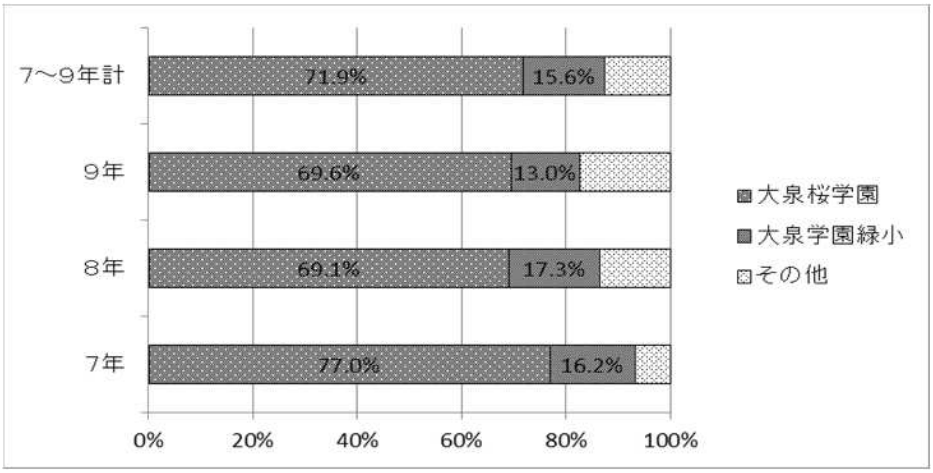
（２）検証ヒアリング

○検証計画に基づき、大泉桜学園教職員、桜連絡会（ＰＴＡ）役員、学校関係者（町会長、学校応援団代表、主任児童委員）、児童生徒会役員を対象にヒアリングを実施した。

（３）学校満足度調査の分析

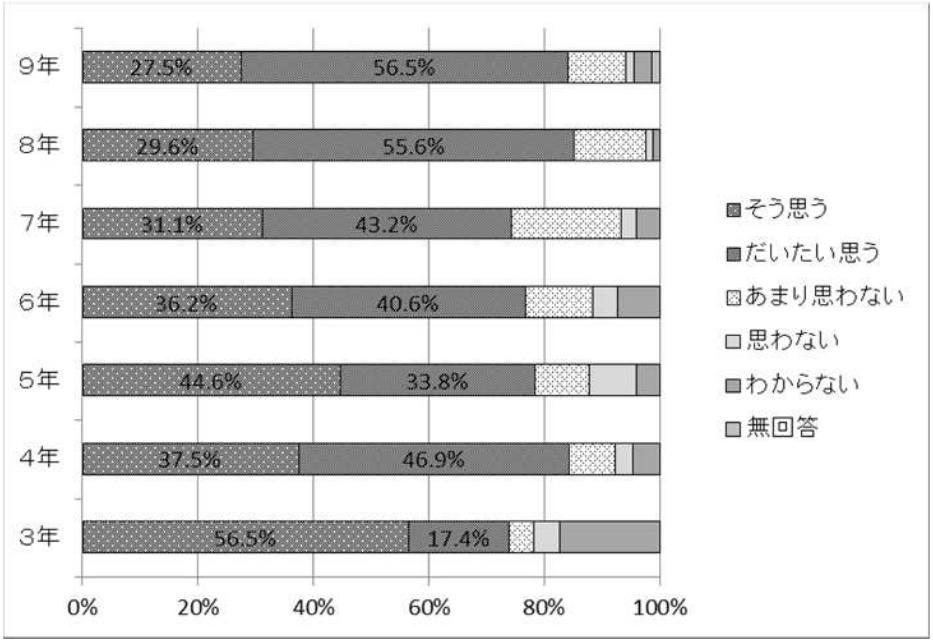
○平成 24 年～26 年度に実施した学校生活満足度調査の結果を分析し、児童生徒の変容について検討した。

1	7～9年生	問1	卒業した小学校を教えてください。



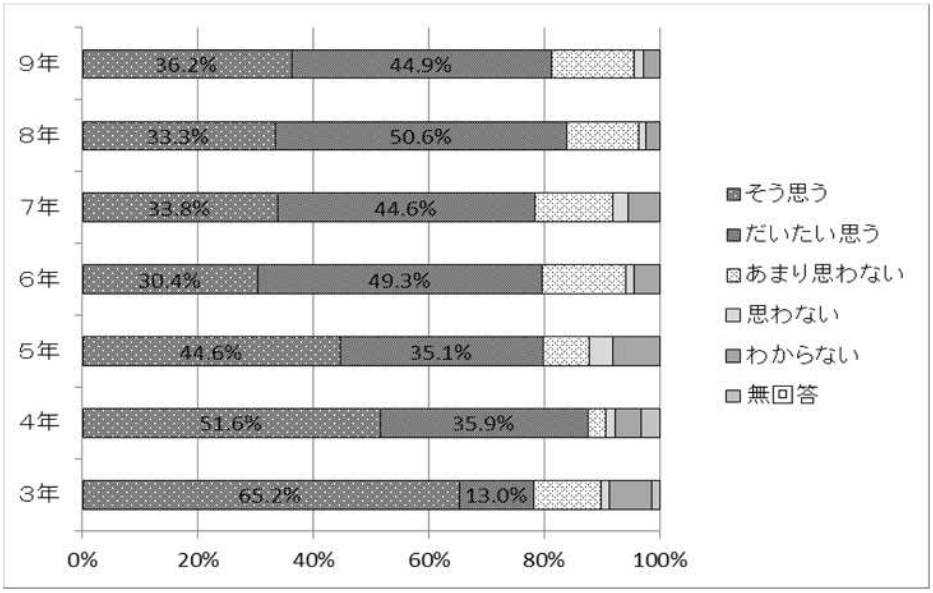
大泉桜学園の6年から7年に進学する生徒は、全体の約72%、大泉学園緑小学校から進学した生徒は約16%、他の小学校からの進学は約13%である。児童・生徒数、学級数、学齢簿に対する入学者数の割合は開校後に高くなってきている。

2	3・4年生	問1	あなたは、9年生までの上級生をもくひょうにしたりお手本にしたりすることがありますか。
	5・6年生	問1	あなたは、9年生までの上級生を目標にしたりお手本にしたりすることがありますか。
	7～9年生	問2	あなたは、1年生までの下級生の目標やお手本になろうと思うことがありますか。



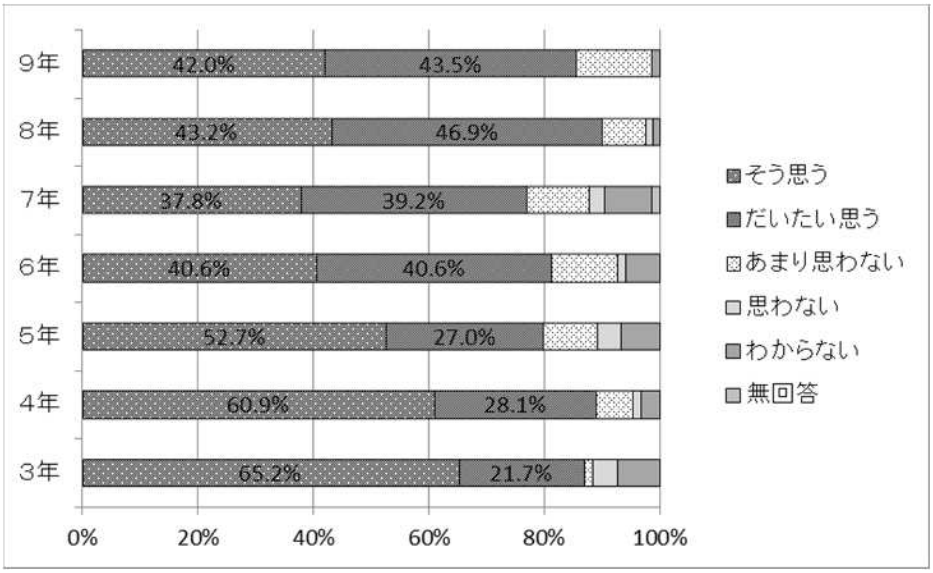
下級生が上級生を手本にしたり、上級生が下級生の手本となることについては、概ね8割の児童生徒が自覚している状況にある。6年生にとっては下級生の手本となる意識、7年生にとっては上級生を手本とする意識について考察することも必要である。

3	3・4年生	問2	全校でいっしょに行ったうんどう会で、上級生をもくひょうにしたりお手本にしたりしましたか。
	5・6年生	問2	全校でいっしょに行った運動会で、上級生を目標にしたりお手本にしたりしましたか。
	7～9年生	問3	全校でいっしょに行った運動会で、下級生の目標や手本になることを意識しましたか。



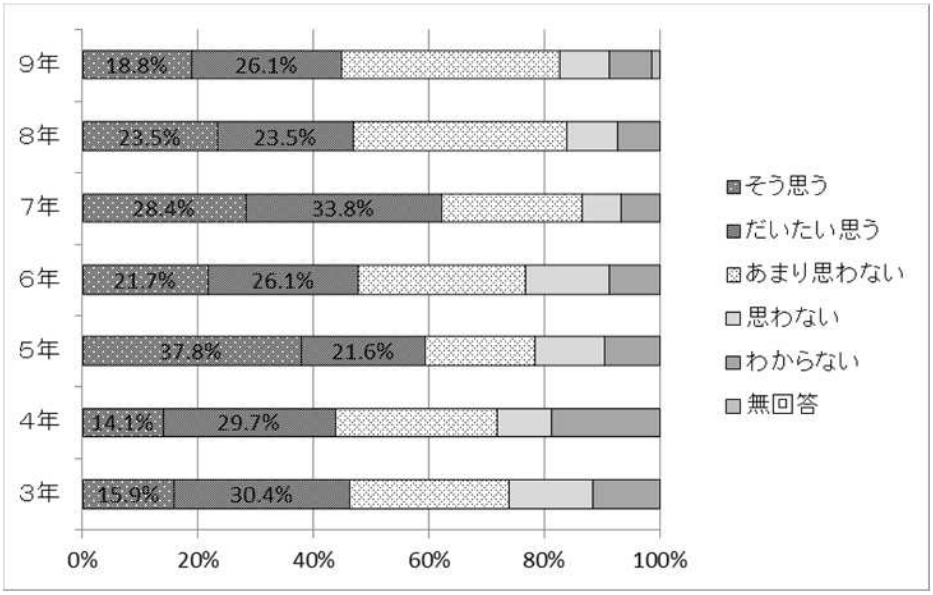
下級生が上級生を手本にしたり、上級生が下級生の手本となることについて概ね8割の児童生徒が自覚している状況にある。

4	3・4年生	問3	全校でいっしょに行うさくら祭で、上級生をもくひょうにしたりお手本にしようと思いますか。
	5・6年生	問3	全校でいっしょに行う桜祭で、上級生を目標にしたりお手本にしようと思いますか。
	7～9年生	問4	全校でいっしょに行う桜祭で、下級生の目標や手本になりたいと思いますか。



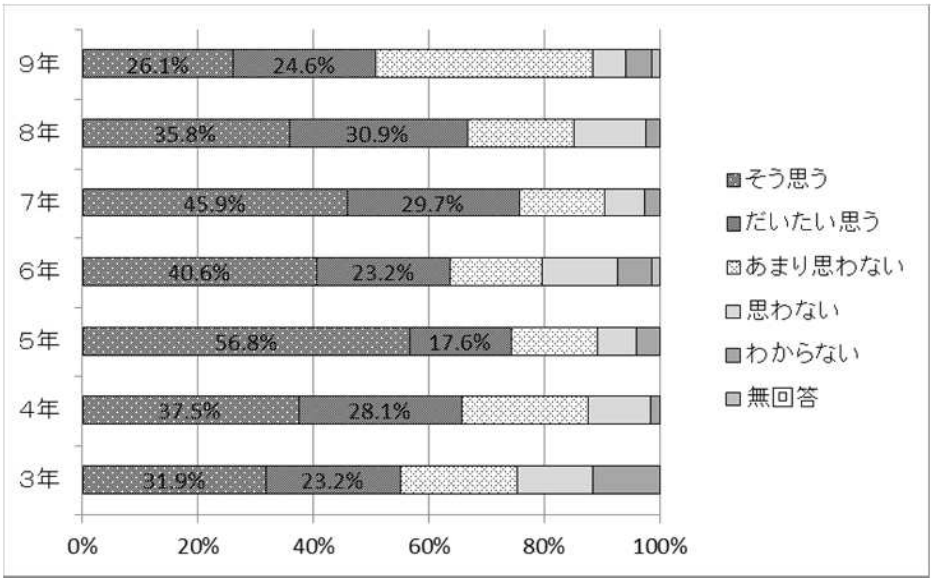
下級生が上級生を手本にしたり、上級生が下級生の手本となることについて概ね8割の児童生徒が自覚している状況にある。一方で、他の学年に比べて5～7年生の肯定的回答が低い面がある。

5	3・4年生	問4	7・8・9年生をたんとうする先生と話をすることがありますか。
	5・6年生	問4	7・8・9年生を担当する先生と話をすることがありますか。
	7～9年生	問5	6年生以下の下級生を担当する先生と話をすることがありますか。



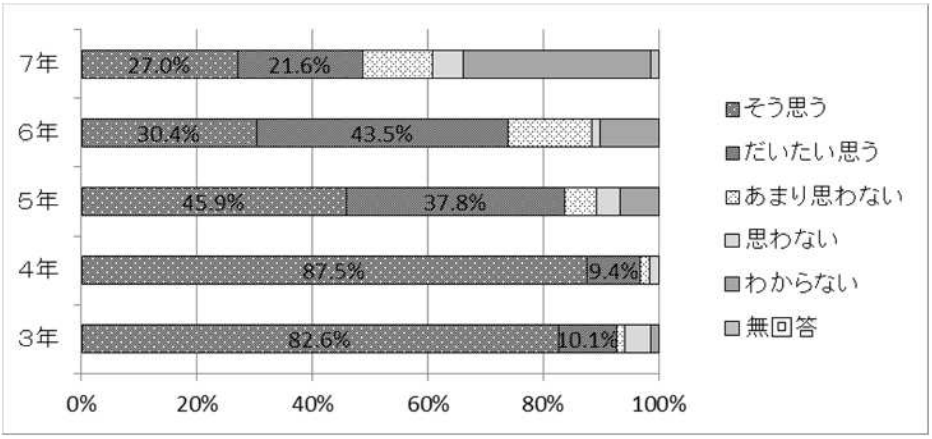
全体的に児童生徒の半数は、小学校籍と中学校籍を越えて教員とかかわる経験がある状況である。特に5年生と7年生の回答が高い点は、施設一体型の小中一貫教育校であることの効果と期待することができる。

6	3・4年生	問5	7・8・9年生と話をすることはありますか。
	5・6年生	問5	7・8・9年生と話をすることはありますか。
	7～9年生	問6	6年生以下の下級生と話をすることはありますか。



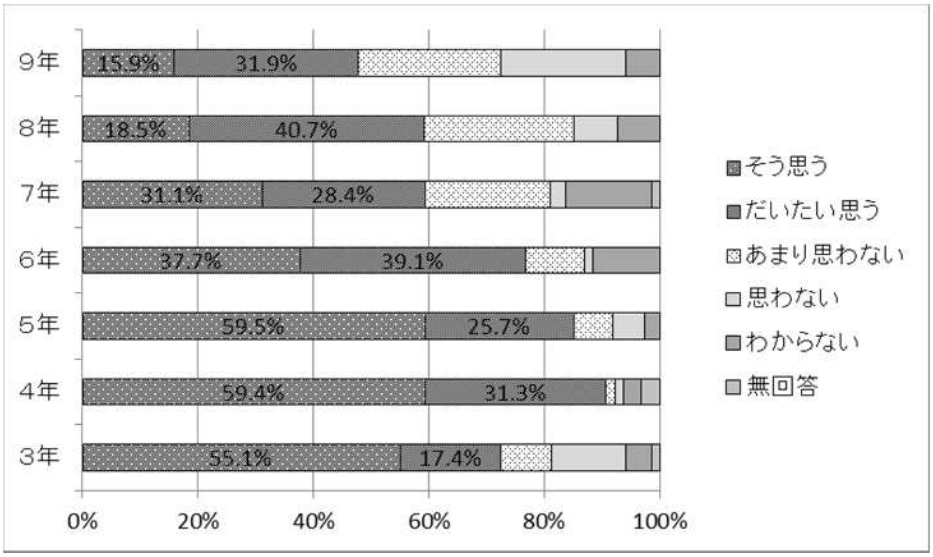
全体の6割以上がいわゆる中学生や小学生の関係を越えて何らかの交流をもっている。特に5年生徒7年生は約7割に達している。

7	3・4年生	問6	4年生で東校しゃのリーダーになってがんばりたいと思いますか。
	5・6年生	問6	4年生の時に東校舎でリーダーとなった経験は、今の学校生活に役立っていると思いますか。
	7～9年生	問7	（7年生のみ）4年生の時に東校舎でリーダーとなった経験は、今の学校生活に役立っていると思いますか。



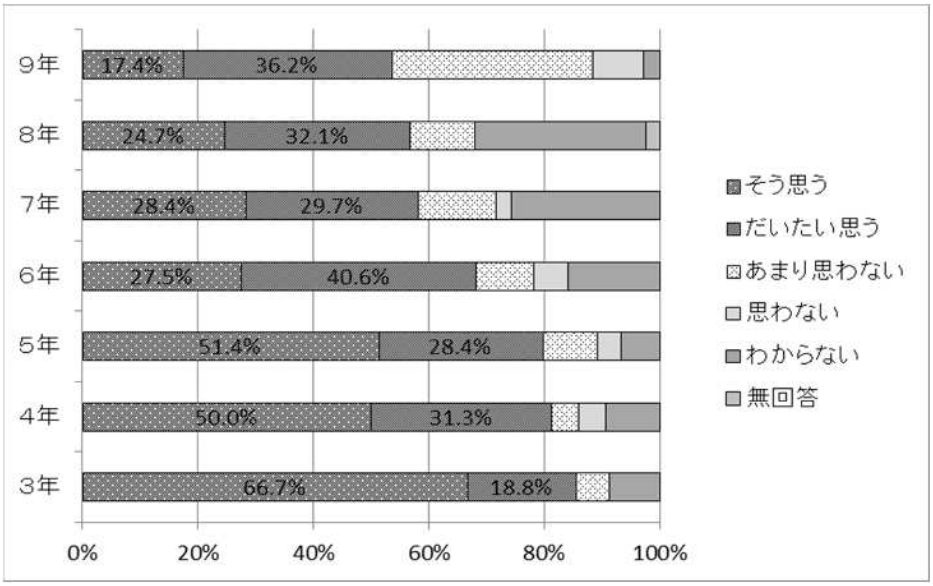
8・9年生は開校前に4年生であったため、質問の対象としなかった。3・4年生の意欲の高さは、発達段階の特性とともに東校舎での学校生活の影響を受けていることが推察される。5年生以上で肯定的回答が減少することも発達段階の影響も考えられるが、半数以上の児童生徒は4年の経験を肯定的に受け止めている。

8	3・4年生	問7	5・6年生になって、7年生より年上の上級生といっしょに西校しゃで学校生活を送りたいと思いますか。
	5・6年生	問7	5・6年生が西校舎で上級生と一緒に学校生活を送ることはよいと思いますか。
	7～9年生	問8	5・6年生が西校舎で上級生と一緒に学校生活を送ることはよいと思いますか。



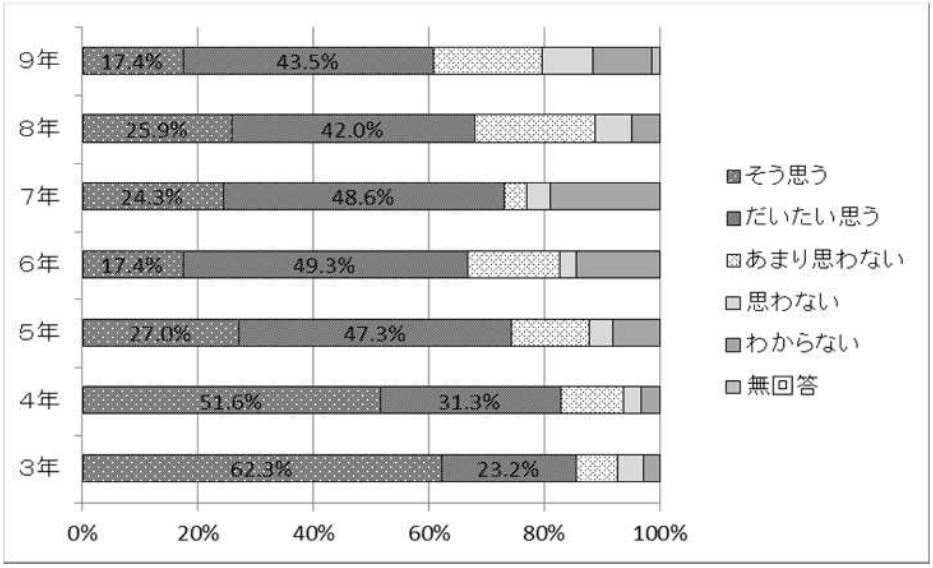
6年生までは約8割、7・8年生は約6割の児童生徒が西校舎での学校生活に期待と意義を感じている。9年生の肯定的回答が低い点については、開校1年目に西校舎で学校生活を始めた際の6年生であったことが影響している可能性も考えられる。

9	3・4年生	問8	交流きゅう食では、上級生と食事をして楽しいですか。
	5・6年生	問8	他の学年の人と食べる交流給食は、楽しいですか。
	7～9年生	問9	他の学年の人と食べる交流給食は、楽しいですか。



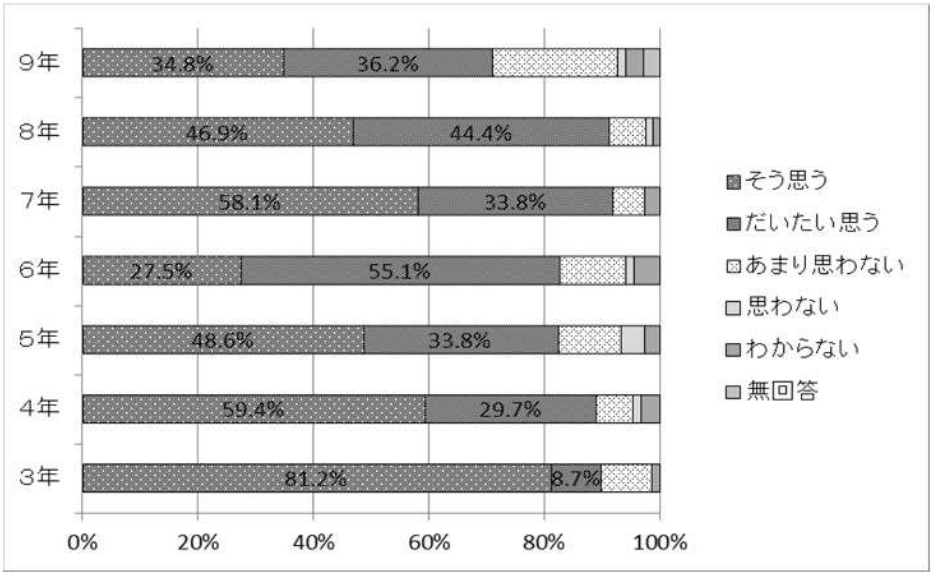
3～5年生にとっては約8割が楽しいと回答している。学年が上がるにつれて肯定的回答は減少するが、9年生も5割以上が楽しいと回答している。9年生において楽しいとは「あまり思わない」と回答する生徒が約4割いる点については、9年生への指導の工夫を必要している可能性がある。

10	3・4年生	問9	1～9年生の全員で行う集だん下校くん練では、家の近くに住んでいる上級生といっしょに下校してあんしんできますか。
	5・6年生	問9	1～9年生の全員で行う集団下校訓練では、家の近くに住んでいる上級生と協力して下級生の世話をしていますか。
	7～9年生	問10	1～9年生の全員で行う集団下校訓練では、上級生として家の近くに住んでいる下級生をきちんと見守ることができていますか。



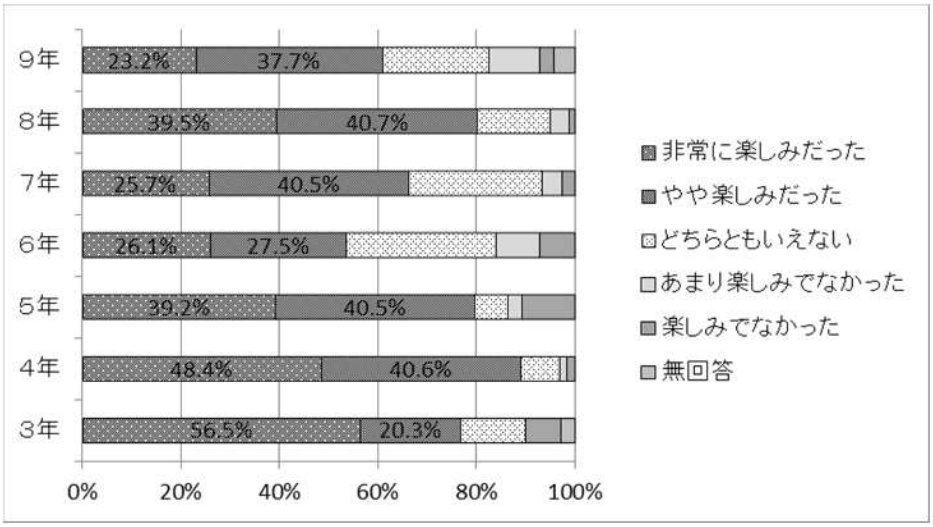
5年生以上については、下級生の世話をする観点での質問であるが、5年生と7年生の肯定的回答が高い点が目立っている。もっとも低い9年生においても6割以上の肯定的回答が得られている。

11	3・4年生	問10	期べつ朝礼や期ごとの行事にすすんでさんかしていますか。
	5・6年生	問10	期別朝礼や期ごとの行事にすすんで参加していますか。
	7～9年生	問11	期別朝礼や期ごとの行事に積極的に参加していますか。



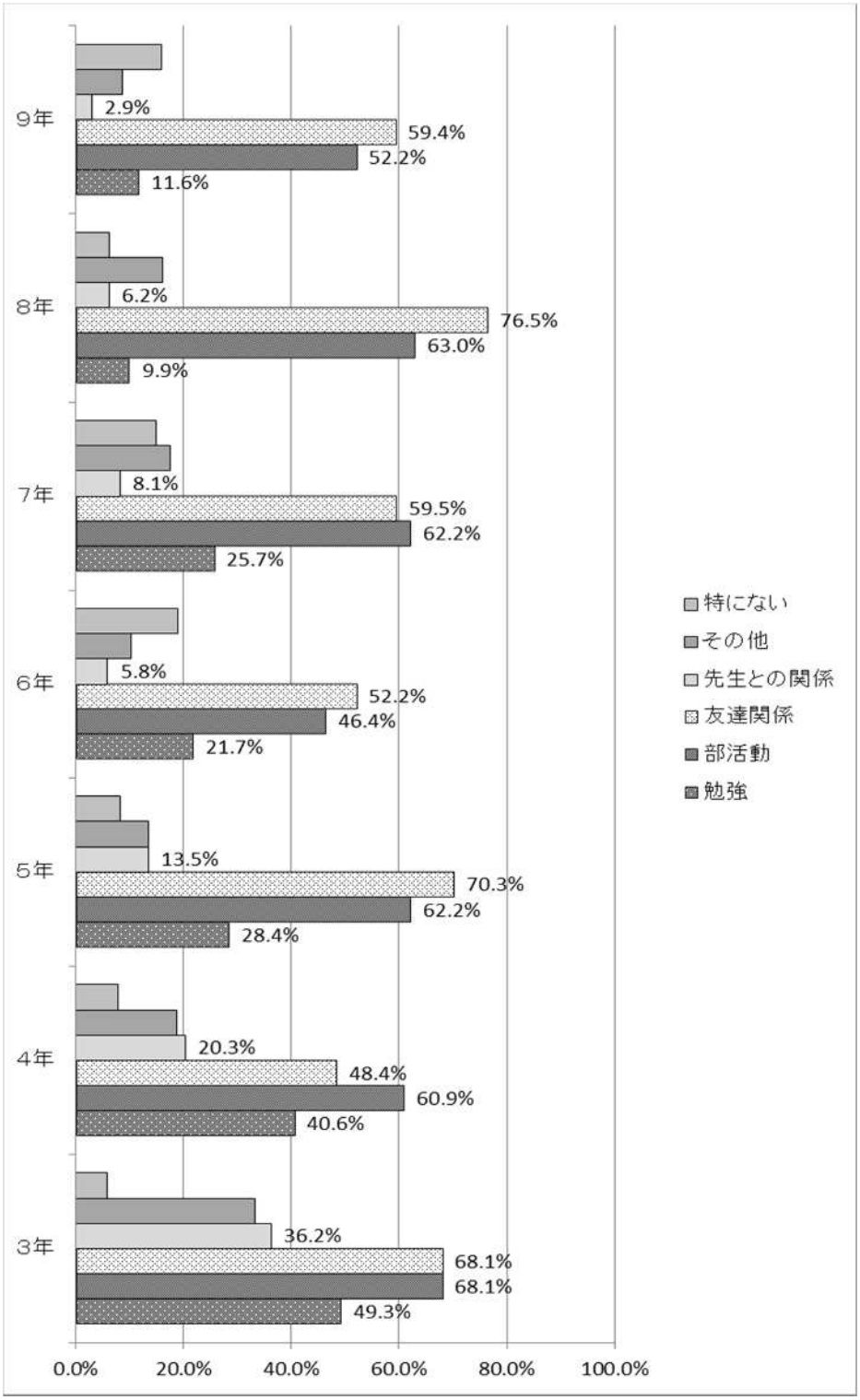
全体的に9割近い児童生徒が肯定的回答をしている。9年生の肯定的回答が低い点について、9年生が考える積極性についてさらに検討する必要がある。

12	3・4年生	問11	あなたにとって、中学校（7～9年生）に進学することは楽しみですか。
	5・6年生	問11	あなたにとって、中学校（7～9年生）に進学することは楽しみですか。
	7～9年生	問12	あなたが中学校（7～9年生）に進学したときの気持ちはいかがでしたか。



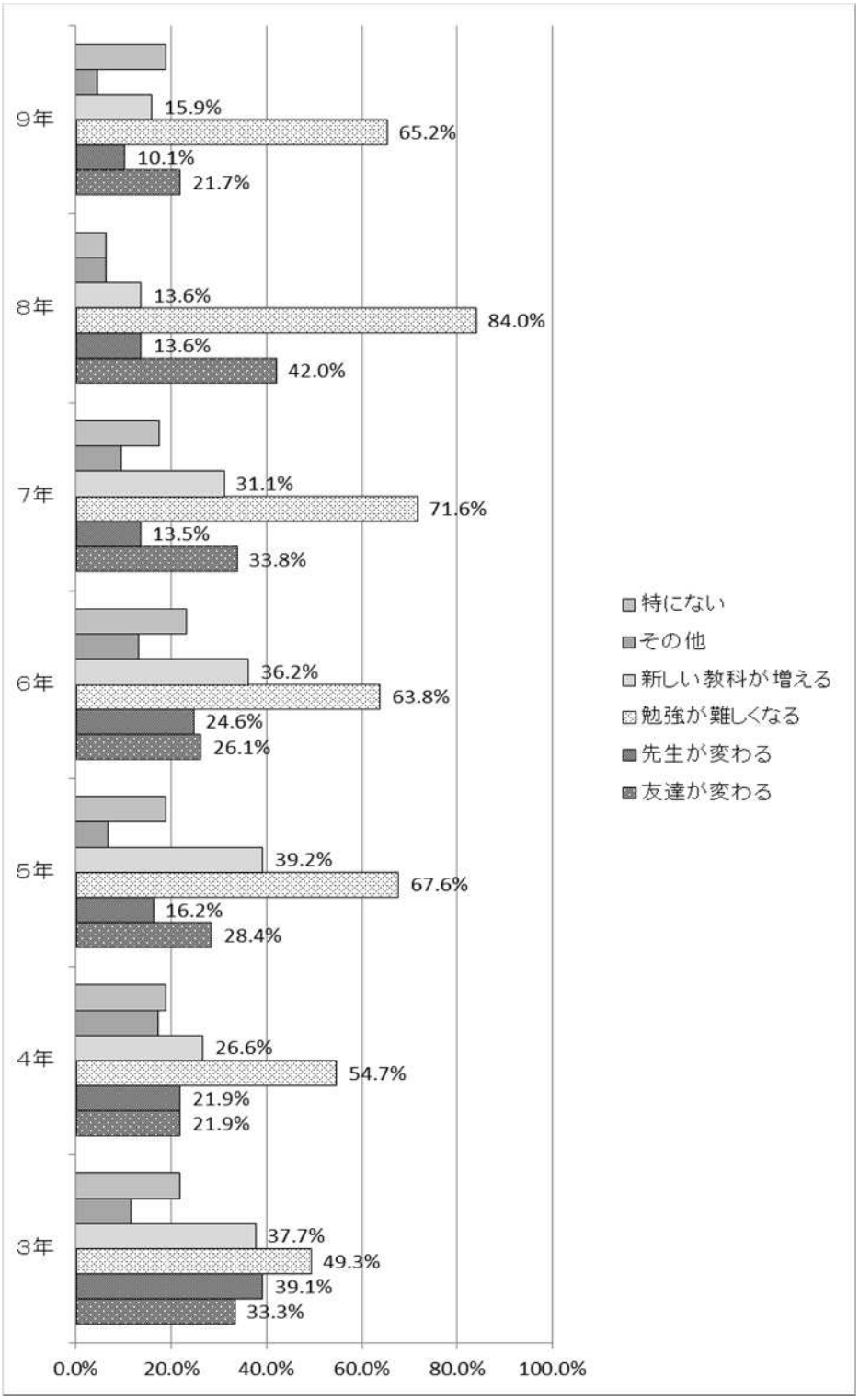
中学校進学に対する期待について、6年生の肯定的回答が低い。中学校選択制度の手続きや中学校進学が目前に近づいていることから生じる不安感等の可能性も考えられる。一方で、7・8年生の中学校進学に対する期待の高さも特徴的である。

13	3・4年生	問12	あなたにとって、中学校（7～9年生）に進学することで、楽しみなことは何ですか。（いくつでも）
	5・6年生	問12	あなたにとって、中学校（7～9年生）に進学することで、楽しみなことは何ですか。（いくつでも）
	7～9年生	問13	あなたにとって、中学校（7～9年生）に進学することで、何が楽しみでしたか。（いくつでも）



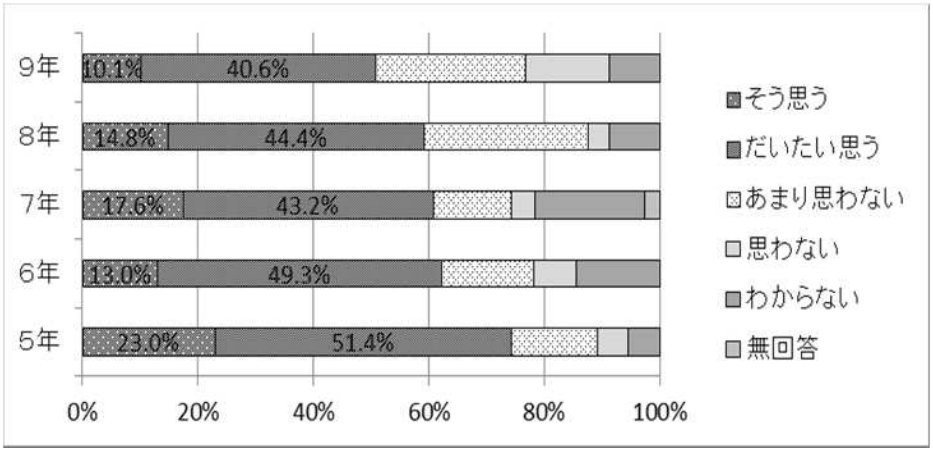
中学校進学の楽しみは、どの学年も部活動と友人関係が高い割合を示している。学年が上がるにつれて勉強に対する期待が減少していく傾向がある。

14	3・4年生	問13	中学校（7～9年生）に進学することで、ふあんに思うことは何ですか。（いくつでも）
	5・6年生	問13	中学校（7～9年生）に進学することで、何が不安ですか。（いくつでも）
	7～9年生	問14	あなたにとって、中学校（7～9年生）へ進学するときに不安に思ったことは何でしたか。（いくてでも）



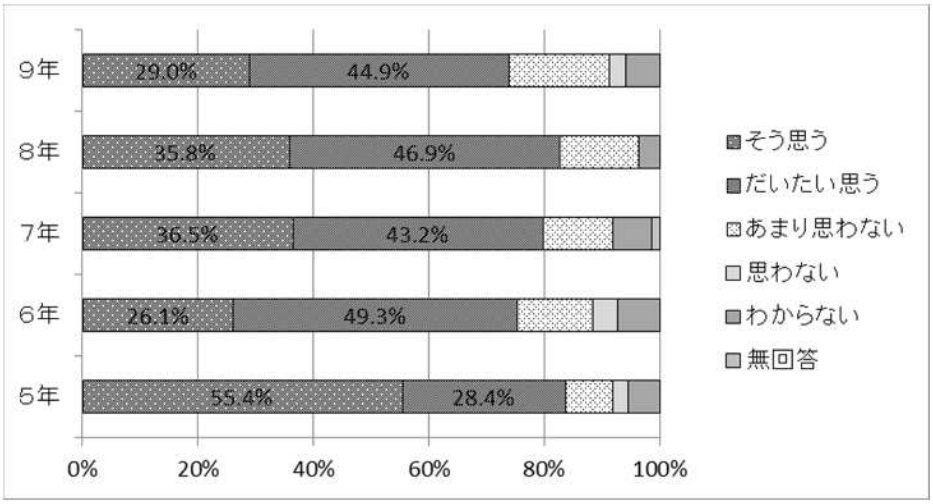
中学校進学に対する不安の第一は、どの学年も「勉強が難しくなる」ことを挙げており、学年が上がるにつれて増加傾向にある。先生が変わることに関する不安は、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。

15	5・6年生	問14	教育目標「桜学精神」－桜の花よりも華ある人、桜の花よりも時機を知る人、桜の花よりも愛される人－を大切に学校生活を過ごしていますか。
	7～9年生	問15	教育目標「桜学精神」－桜の花よりも華ある人、桜の花よりも時機を知る人、桜の花よりも愛される人－を大切に学校生活を過ごしていますか。



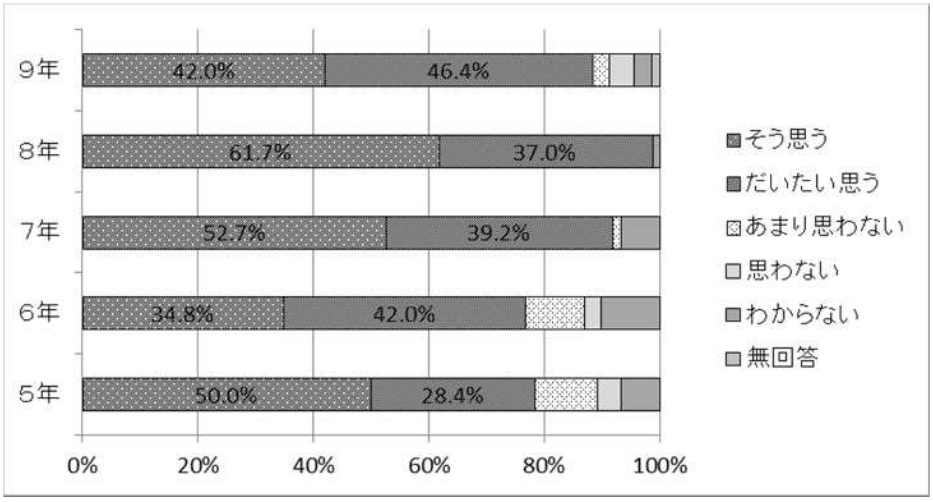
教育目標と指針については、学年が上がるにつれて深く考えて理解する傾向にあることから、肯定的回答が低くなったものと考えられる。肯定的回答が最も低かった9年生も5割に達していることから、児童生徒の教育目標と指針に対する理解は進んでいるとも考えられる。

16	5・6年生	問15	学校以外の場所でも自分の力を発揮しようと思いますか。
	7～9年生	問16	学校以外の場所でも自分の力を発揮しようと思いますか。



学年による割合の若干の違いはあるが、全体的に約8割の児童生徒が肯定的に回答している。

17	5･6年生	問16	中学生になっても大泉桜学園で学んだことをもとに自分の力を信じて努力しつづけようと思いますか。
	7～9年生	問17	卒業後も大泉桜学園で学んだことを基に自分の力を信じて努力し続けようと思いますか。



全体的に肯定的な回答は高いが、特に7～9年生が本校で学んだことをもとに自分を信じて努力する意識が高い。

大泉桜学園の検証におけるヒアリング記録（教職員）の総括

1　９年間を見通したカリキュラムを作成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができる。（主に学習指導、体力向上）

- 指導の重点など学習指導上の要望を率直に伝えるなど、学習内容や指導の在り方、授業の協力やカリキュラム開発等に関する相互理解や協力、指導の工夫が生まれている。
- 授業協力やカリキュラム開発等の研究活動について、教員は校種を超えて相互に協力しており、練馬区教育委員会教育課題研究指定校として学習内容と学習規律、必要な能力に関するカリキュラム開発に取り組んでいる。
- ４－３－２の区切りについては、３－３－３の方がよいとの意見もあったが、その意義やねらいについて理解し、教育活動の充実を図っている。
- ５０分授業や一部教科担任制を体験することは、６年生から７年生への円滑な接続についての効果が認められている。
- 一部教科担任制に対して児童は早く慣れ、教員も児童理解を深めるとともに教材研究の充実が図られている。
- ５０分授業について５・６年生の児童は早く慣れ、教員も増加する５分を演習や振返りの時間など授業の充実に活用している。
- ２０分の休み時間がなくなったり給食時間が短くなったりしたことについての課題を指摘する意見がある。
- 児童・生徒の学習のつながりや育ちのプロセスが見えやすく、若手教員の育成にも効果がある。
- 通知表の様式や評価・評定の６年生から７年生への段差について課題を感じ、検討している。

2　小学校から中学校へ進学する際の段差を緩やかなものにし、円滑な移行が図れる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる。（主に生活指導、特別支援教育）

- ５～７年の担当教員の連携が図りやすくなっているとの意見がある一方、教員の共通理解が十分ではないとの意見もある。
- 小学校籍の教員は進学した児童を見ることができ、中学校での成長が理解できるようになる。
- 小学校籍の教員がいることや児童・生徒が８・９年生の姿を見てきたことによる安心感は、７年生の学校生活への適応に役立っている。
- 転入した教員が小中一貫教育校の生活指導の方針等を理解する方法に課題がある。
- 生徒は上級生や教員、学習等に関する不安が少なくなる一方で、緊張感がなくなる、７年生に幼さが見られる、上級生に対する言葉づかいに課題が見られるなどの指摘がある。
- ４年生は、５年生から始まる西校舎の学校生活に対して心構えが生まれている一方、４

年生から５年生への段差が大きいとの意見もある。
・ 上級生は下級生に優しく穏やかになっている。
・ 標準服の着用率は上がっており、６年生以下でも保護者へ事前の協力依頼がなくても標準服に準じた服装を着用するようになった。
・ 学校生活のきまりなど、小学校と中学校の違いを生かして指導することがあるため、Ⅱ期の児童・生徒に対する指導には難しい面がある。
・ ７年生以上の生徒への指導では、６年生までの情報を生かしたり５・６年生の生活指導に中学校籍の生活指導主任が関わったりすることで指導の効果を高めている。
・ 成長のモデルが身近にあることをはじめ、７年生の学級編成に６年時担任が協力している。
・ ５・６年生の相談室や保健室の利用、養護教諭の役割分担等は二つに分かれるが、５・６年生については発達段階に合わせて両方を利用できるようにするなどの対応を工夫している。
・ 学校医は１～６年生と７～９年生で担当医が分かれている。同じ学校医がいいとの意見もある。
・ 体格は良くなり、体力面では投力が全学年で低い。状況判断の力について課題があるとの意見もある。

３　幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性の育成ができる。（主に道徳、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導）

・ 運動会で上級生が下級生の世話をしたり運営にかかわったりする姿を通じて、下級生は将来の自分のイメージをもちやすくなっている。
・ ８・９年生に次のステップやロールモデルを示すことが課題との意見がある。
・ 桜祭や運動会に対する考え方は、小学校籍の教員と中学校籍の教員で違う面がある。
・ 入学式や卒業式については、元々の良さがいい形で融合している。
・ ７年生で飯盒炊さんや防災リーダー等の経験ができる機会を多く用意できたのはよい。
・ ４年生は委員会委員長や縦割りの班長について意欲をもって参加し、４年生が中心になってまとめていくことができることが分かるなど、成長を感じている。
・ 交流給食は児童・生徒が顔見知りとなるきっかけになり、学校行事などにつながるとともに、児童が中学校を理解して身近に感じている。
・ ７年生は５・６年生がいることで先輩としての振る舞いができる。
・ Ⅱ期については、７年生におけるリーダー性の育成について飯盒炊さんや防災リーダーの取組を通じてその効果や意義を感じている一方で、何を身に付けさせたいか共通理解が十分ではないとの指摘もある。
・ ９年間を通してリーダーを３回経験する機会があると捉える一方、６年生のリーダー性の在り方について、中学校進学時のリセット感など、Ⅱ期に関する教員の中に戸惑いや

課題意識が見られる。
- ５・６年生の部活動での怪我が多い。練習内容に関する教員側の意識も課題である。
- 道徳教育について９年間を見通したカリキュラムを立て、命の教育に全員で取り組んだのは良かった。
- 特別活動に対する小学校籍の教員と中学校籍の教員の意識の違いはあったが、相互理解が進んで行事が改善され、よい協力関係が築けている。
- キャリア教育などⅢ期の成長を支える取組が必要ではないかと思う。

４　小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が今まで以上に構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができる。（主に学校運営）

- 教員の相互理解が土台となり、連絡調整がしやすく協力的な関係が生まれている。
- ５・６年生と７年生の教員は座席が近いことや指導した生徒をはさんで話ができるようになっている。
- 管理職の中でも小学校籍と中学校籍のちがいがあり、相互理解に努めていた。
- 副校長３人の仕事分担について、学年や分掌、委託業務の管理等の分担はあるが、統括する副校長を中心に調整しながら相互に連携している。大きな問題への対応などがある場合は、担当を越えて動いている。
- 事務体制は、都費の事務職員が２名、区の非常勤職員が１名、臨時職員が２名の計５名体制なので互いに話し合いながら仕事ができている。
- 会計管理や給与、振込手続き、調査回答等、学校名や住所の扱い方は内容に応じて小学校、中学校、小中一貫教育校と分けて対応している。
- 区では予算が小学校費と中学校費が分かれているため、予算の執行について、消耗品は中学校費、芝生など小学校限定のものは小学校費で出すなどの対応をしている。
- 開校当初は、備品台帳を一つにしてもらえなかったので何度も区にお願いするなど、教育委員会事務局や区役所側の対応にも課題があった。
- 栄養士が二人いる体制は、互いに協力して対応できるので助かっている。
- 開校前の協議等で理解できなかった相手校種の考えについて、職員室が一緒になることで理解できるようになった。
- 連絡調整は必要であり増えたが、仕事が増えたとはあまり感じていない者もいる。
- 研究での連携と進め方については、互いに授業を見合い授業について意見を言わない印象があった中学校籍の教員が互いの授業を見合い話すようになった。
- 異動による教員の入れ替わりにより、開校当初のねらいが変わることを懸念する声もある。
- 教務主任は二人であるが、分業しながら調整して管理職に相談している。
- 学校納付金や就学援助について、保護者の理解や手続きについて丁寧に説明し、対応することが科必要である。

5　地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を得られる。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができる。（主に保護者、地域）

（ヒアリング記録については、別途提示する。）

6　施設整備における効果と課題 職員室、東校舎・西校舎、渡り廊下、校庭、ランチルーム、多目的室、プール、体育館、学習室、保健室、相談室、個別学習室、学校図書館ほか

- 職員室が一つであることの意味と効果が大きい。
- 職員室が一緒になることで初めて分かることがあるなど、相互理解が進んでいる。
- 小学生が保健室に求めるニーズと、中学生が保健室に求めるニーズはかなり違うこともあり、保健室が二つあることでやりやすい。
- 給食は１・２年生、３・４年生、５・６年生、中学生で摂取基準が分かれており、量の調整で対応している。
- 中学生の給食は、摂取基準から小学生よりも一品多くしたいところであるが、給食指導をする教員に配慮して品数は増やさずに量で調整している。
- 品数を増やせば小学校籍の教員と中学校籍の教員で食べるものが変わってしまうことになるので。教員は中学生の量で提供している。
- 開校時に食器の数も９種類に増やし、大きさを１～４年生までのものとそれ以上の学年用で揃えた。
- 栄養指導の面で、子供の育ちを９年間でみられるようになるなど、食を通じて子供たちの変化や育ちを見ることができ、声がけができる。
- 校舎で給食の時間が異なるので、時間差で作ったりする。
- 学年によって食材を切る大きさを変えたり、児童・生徒の発達段階に応じて配食しやすいものを考えたりしている。
- 階段の高さや跳び箱の高さ、黒板の高さなど、小学校と中学校で規格が違うものへの対応や、西体育館のスロープや西校舎の昇降口のドアにゴムを貼るなど、様々な年齢の児童・生徒が使用できるように安全面での対応をした。
- 家庭科室は一つにして５～９年が使っていることの課題、理科室が二つであることの課題が指摘されている。

7　小中一貫教育の課題を解決し推進するための先導的な役割、通学区域と学校選択制度、教育委員会の役割

（ヒアリング記録については、別途提示する。）

学校生活満足度調査の分析について

１　学校生活満足度調査について

学校生活満足度調査は、平成２４年度から毎年６月、１１月、２月に実施している「ふれあい月間」の時期に、大泉桜学園が全児童・生徒を対象として独自に行っている質問紙調査である。各学級における児童・生徒の学校生活への適応状況等を把握し、学級経営等に生かすために実施している。

２　使用したデータ

（１）平成２４年６月、平成２５年２月、平成２５年６月、平成２６年２月に実施した学校生活満足度調査の回答を分析した。

（２）分析に使用したデータは、質問１、５、８、９、１６、１７の６問である。

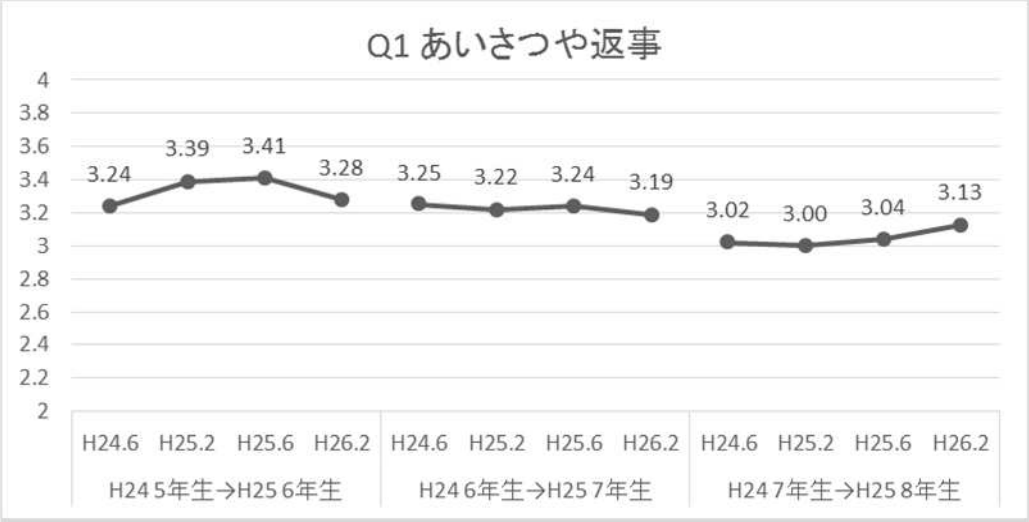
質問１	あなたは、元気よくあいさつや返事をしていますか。
質問５	あなたは、学校で友達と一緒に楽しく遊んだり学習したりしていますか。
質問８	あなたは、友達にいやなことを言われたことがありますか。
質問９	あなたは、友達に仲間はずれにされたことがありますか。
質問１６	クラスの中に、あなたの気持ちを分かってくれる人はいますか。
質問１７	あなたがなにかしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、応援してくれたりすると思いますか。

３　同学年における年度別比較および同年齢集団の回答の変化について

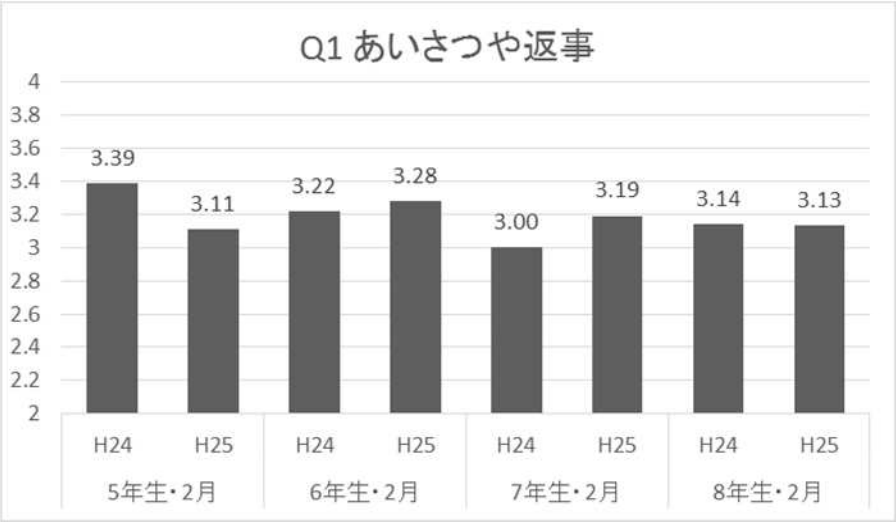
（１）（質問１）あなたは、元気よくあいさつや返事をしていますか。

→　質問の回答については、「よくしている」を４点、「していない」を１点とした数値の平均値を使用した。

①　同じ学年集団における時系列の変化については、共通した傾向は見られなかった。



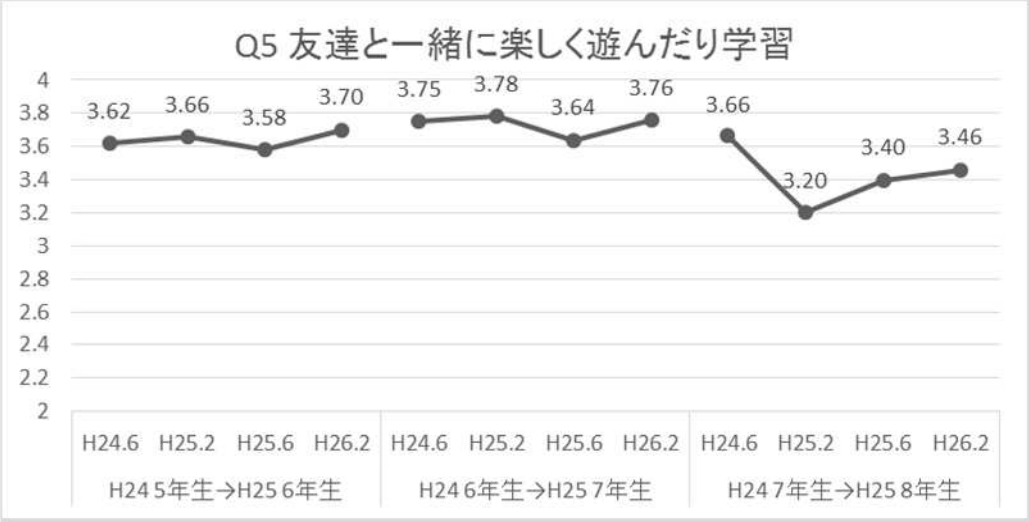
②　平成２４年度と平成２５年度における同学年を比較した場合については、６・７年生においては、平成２４年度よりも平成２５年度の方が平均値は高く、あいさつや返事をする傾向が高かった。



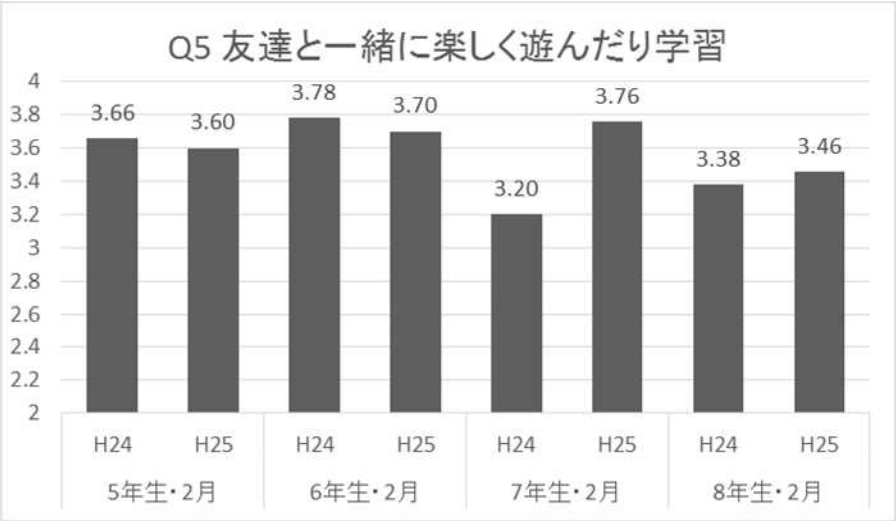
（２）（質問５）あなたは、学校で友達と一緒に楽しく遊んだり学習したりしていますか。

→　質問の回答については、「よくしている」を４点、「していない」を１点とした数値の平均値を使用した。

①　同じ学年集団における時系列の変化については、平成２４年度の５・６年生の平均値は高水準を維持し、７年生は平成２４年度末に平均値が下がった。



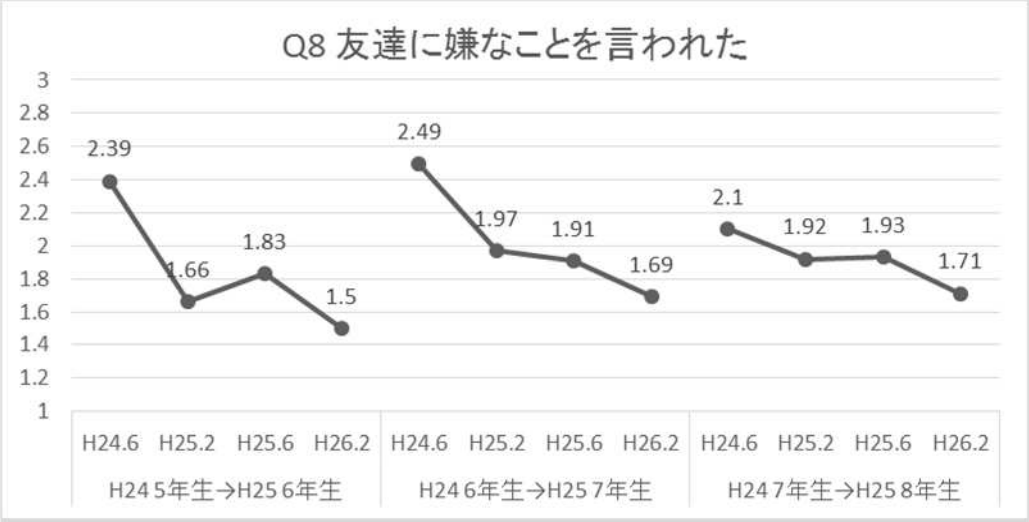
②　平成２４年度と平成２５年度における同学年を比較した場合については、７年生で平均値が上昇し、楽しく遊んだり学習したりしている傾向がみられる他は、大きな差はない。



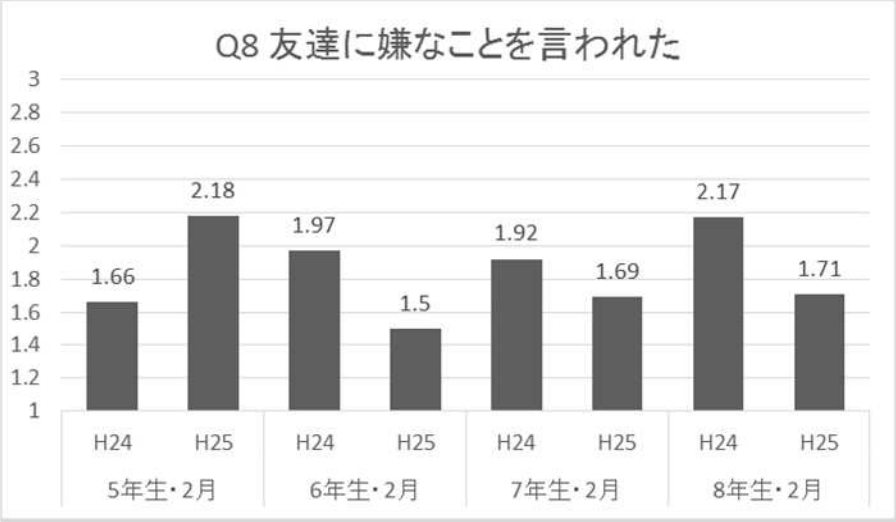
（３）（質問８）あなたは、友達にいやなことを言われたことがありますか。

→　質問の回答については、「よくある」を４点、「ほとんどない」を１点とした数値の平均値を使用した。

①　同じ学年集団における時系列の変化については、どの学年集団においても平均値が減少しており、嫌なことを言われなくなる傾向があった。



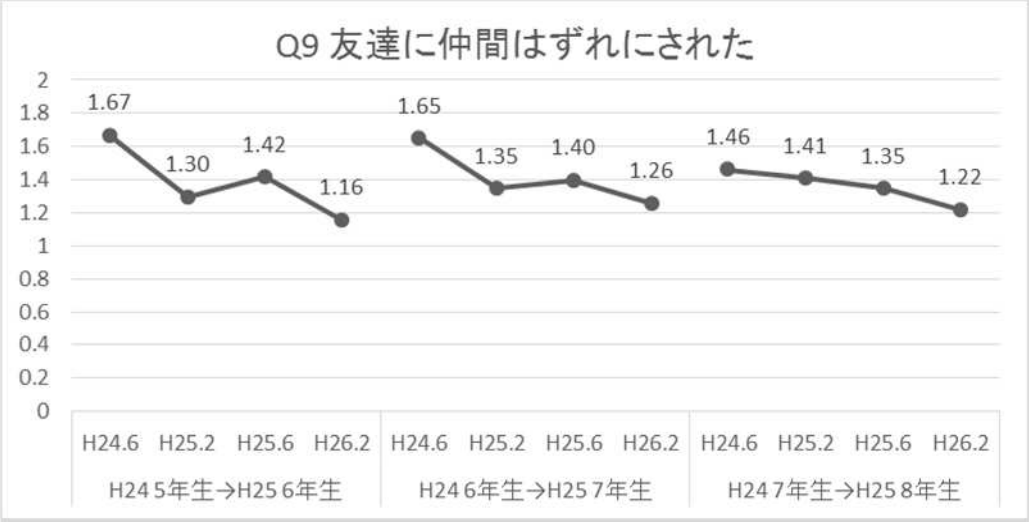
②　平成２４年度と平成２５年度における同学年を比較した場合については、６～８年生において平均値が減少し、嫌なことを言われない傾向があった。



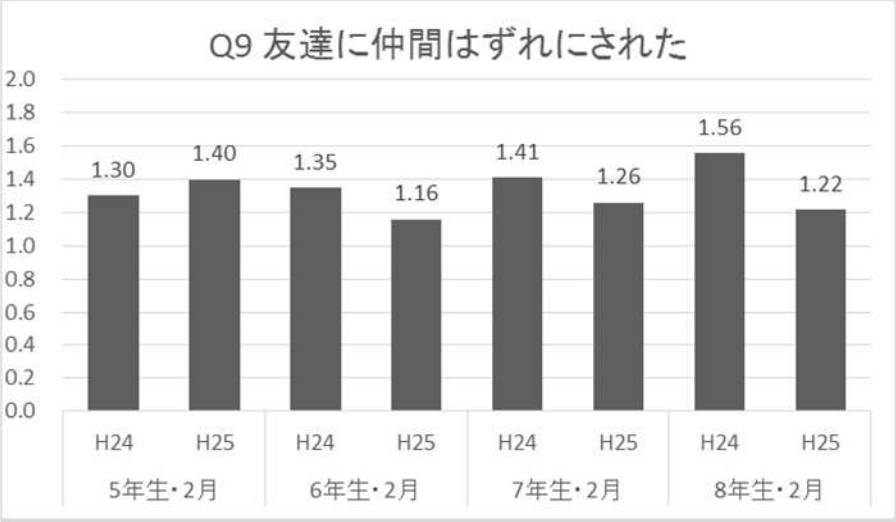
（４）（質問９）あなたは、友達に仲間はずれにされたことがありますか。

→　質問の回答については、「よくある」を４点、「ほとんどない」を１点とした数値の平均値を使用した。

①　同じ学年集団における時系列の変化については、どの世代でも平均値が減少しており、仲間はずれにされなくなる傾向があった。



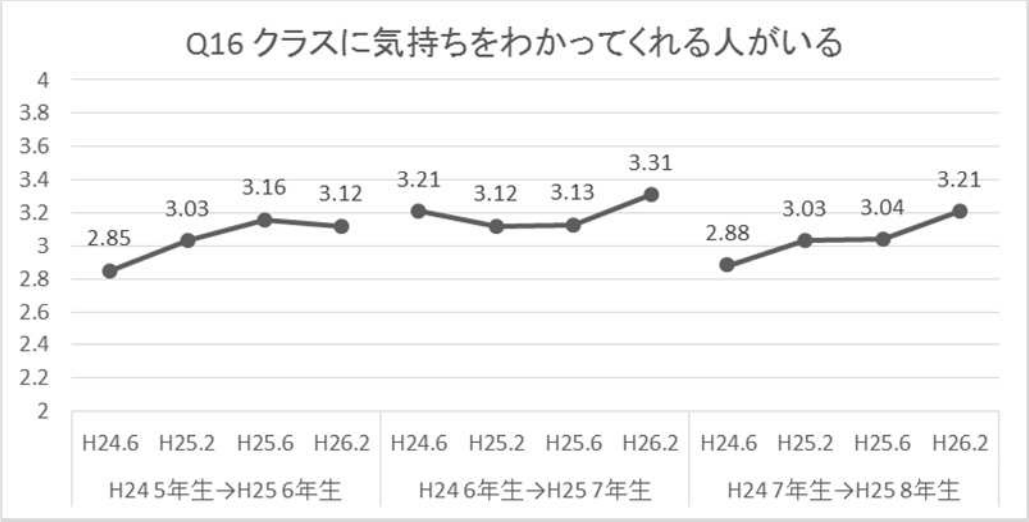
②　平成２４年度と平成２５年度における同学年を比較した場合については、６～８年生に関しては平均値が減少し、仲間はずれにされない傾向があった。



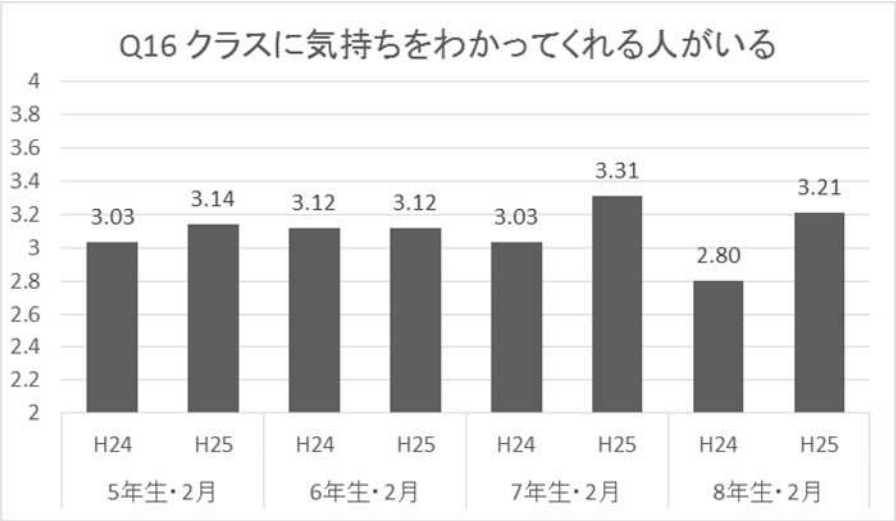
（５）（質問１６）クラスの中に、あなたの気持ちを分かってくれる人はいますか。

→　質問の回答については、「たくさんいる」を４点、「まったくいない」を１点とした数値の平均値を使用した。

①　同じ学年集団における時系列の変化については、平成２４年度に５・７年生だった学年集団では平均値が増加し、クラスに理解者がいるようになる傾向があった。



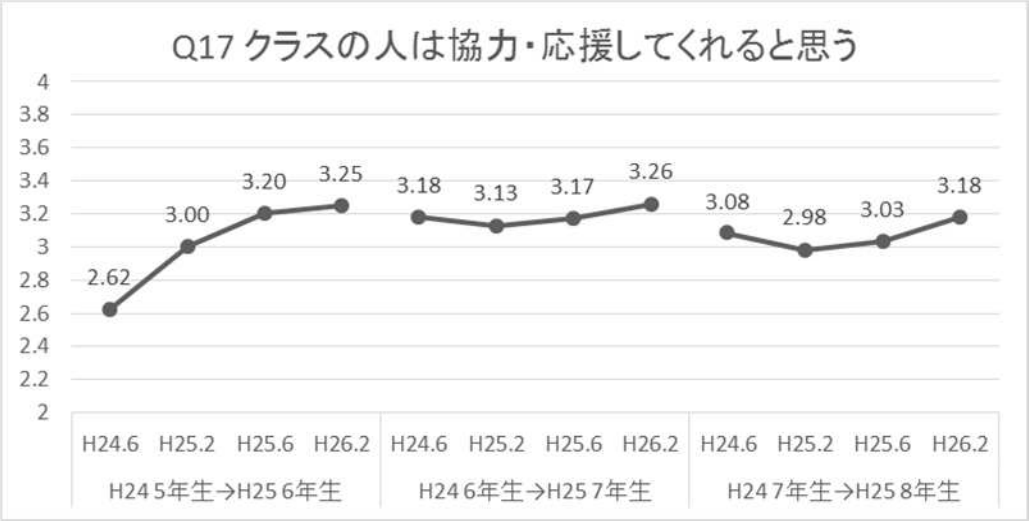
②　平成２４年度と平成２５年度における同学年を比較した場合については、５・７・８年生では平均値が増加し、クラスに理解者がいる傾向があった。



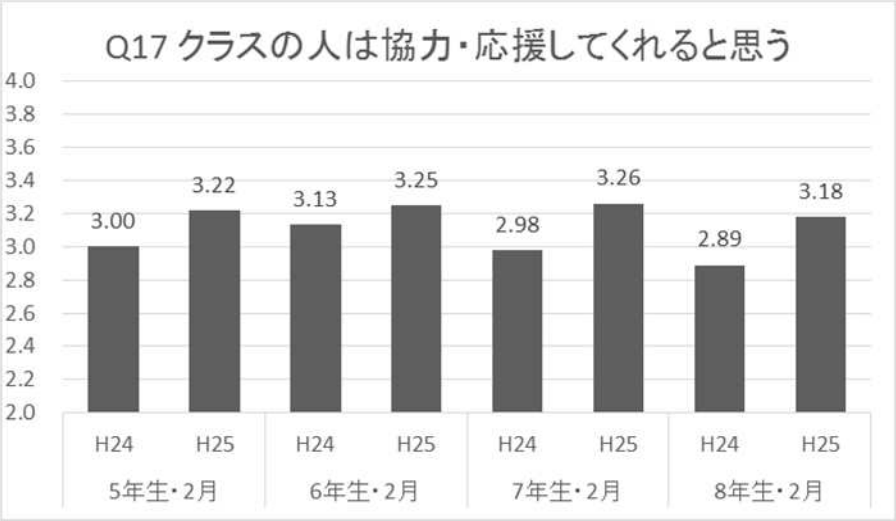
（６）（質問１７）あなたがなにかしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、応援してくれたりすると思いますか。

→　質問の回答については、「とても思う」を４点、「まったく思わない」を１点とした数値の平均値を使用した。

①　同じ学年集団における時系列の変化については、平成２４年度における５年生の学年集団では平均値が増加し、協力・応援をしてくれるようになる傾向があった。他は微増傾向であった。



②　平成２４年度と平成２５年度における同学年を比較した場合については、どの学年でも平均値が増加し、協力や応援をしてくれる傾向があった。

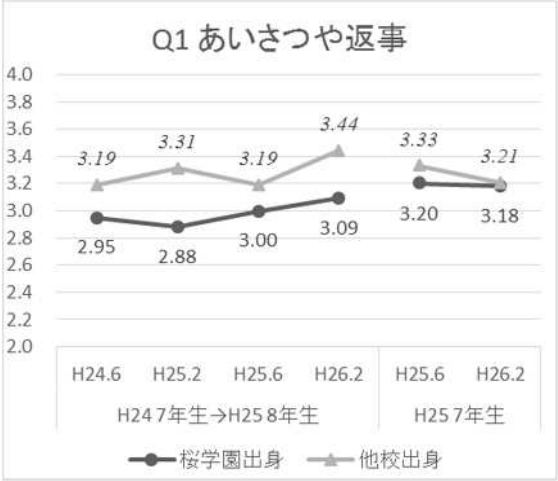
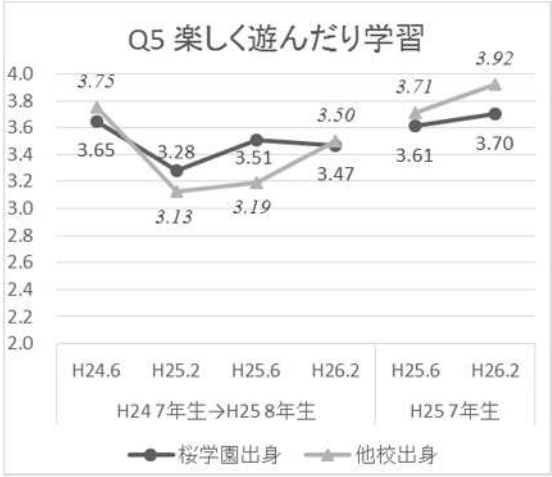
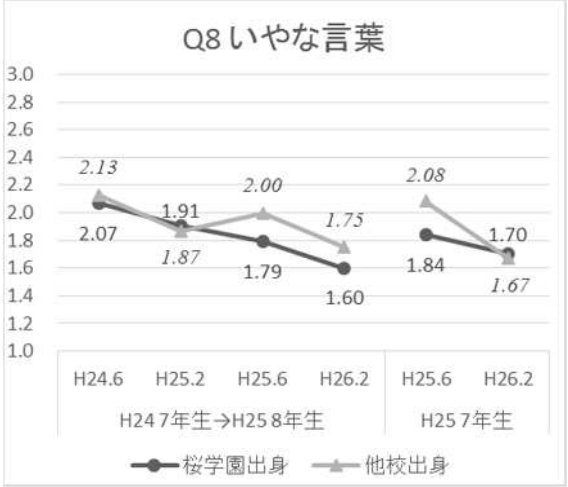
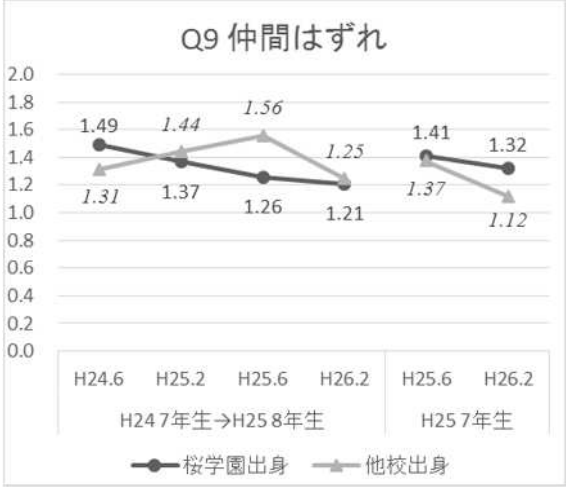
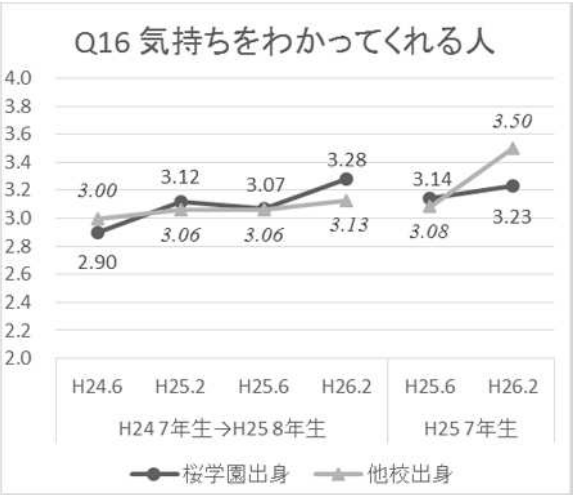
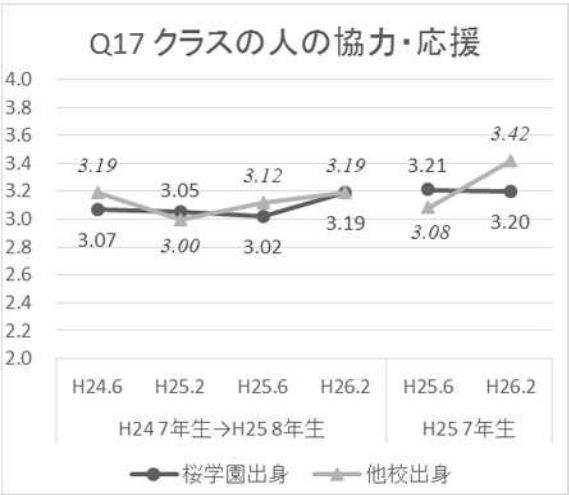


（７）小括

①　同じ学年集団における時系列の変化を比べると、時期が遅くなるにつれて回答が肯定的な方向に変化する学年集団や項目が多かった。このことから、最近になればなるほど、学校に適応していく傾向にあることが考えられる。

② 平成２４年度と平成２５年度における同学年を比べると、平成２５年度における回答が概ね肯定的な方向に変化している。このことから、同学年を比べた場合、平成２４年度よりも平成２５年度の児童・生徒の方が学校に適応している傾向にあることが考えられる。

４　７年生における大泉桜学園内からの進学者と他の小学校からの進学者との比較について

（１）平成２４年度に７年生になった他の小学校からの進学者は、調査の時点によっては大泉桜学園内からの進学者よりいやな言葉を言われたり仲間はずれにされたりする傾向もみられたが、基本的には大泉桜学園内の進学者との平均値の差はほとんどなかった。

（２）平成２５年度の７年生においては、他の小学校からの進学者も大泉桜学園内の進学者と同等以上に学校生活に適応している。